

1	<b>事業名</b>	沿岸漁場整備開発事業	予算額	本課予算	千円
2	<b>事業細目</b>	(試験研究調査項目) 昭和61年度大規模増殖場造成事業事前調査	予算額	1,000	千円
3	<b>期間</b>	61年度～ 年度	予算区分	国補	
4	<b>担当者</b>	山中、水谷、吉原、津村			
5	<b>目的</b>	温水魚の大規模な産卵繁殖場が昭和61年度に近江八幡地区に完成したが、つづいて草津市山田地区に4ヶ年計画、事業費約6億円で造成が予定されている。本年度はこの草津地区大規模増殖場造成のための具体的な事業計画策定のため、生物面からの事前調査と検討を行った。			
6	<b>方法</b>	<p>以下の項目について、現場調査、聴きとり調査、文献収集を行ない、検討資料を得た。</p> <p>(1) 漁場環境調査</p> <p>(2) ヨシ地・藻場調査</p> <p>(3) 対象生物の産卵調査</p> <p>(4) 分布・回遊調査</p> <p>(5) 餌料生物調査</p> <p>(6) 食害魚調査</p> <p>(7) 施設試験—浮産卵床調査</p>			
7	<b>結果の概要</b>	<p>(1) 予定水域の環境について</p> <p>予定水域の水質は、既存の好適産卵繁殖場の水質と比較して、なお栄養水準の低い水質であった。餌料生物は琵琶湖の沿岸部の中でも豊富な水域であることがわかった。造成予定水面は360,000㎡であるが、このうち、ヨシ帯の面積は実測で10,190㎡、沈水植物は44,000㎡であった。沈水植物の植生密度は、昭和44年度に水試が行った沿岸帯調査結果の平均的な植生密度の1/10程度であった。</p> <p>ホンモロコ親魚の予定水域への回遊は、漁獲状況調査や聴きとりから、比較的多いことが予想された。害敵魚については、ブラックバスの影響が懸念された。</p> <p>施設試験として、既設の浮産卵床の効果調査を行ったところ、時期的にフナ、コイ卵が多かったものの、浮産卵床の底面1㎡当り5,500～50,000粒の産着卵が認められ、効果的な人工産卵助長施設として期待できた。</p> <p>(2) 事業構想について</p> <p>増殖場として良好な生息環境の基本的な条件を満たすために必要な諸施設は、現段階でとりまとめると次のとおりである。</p>			

ア. 消波施設：本予定水域は、湾入が浅いため、風波が荒く、水の交流も解放型に近い。消波堤により、静穏で、かつ水の交流の半閉鎖的な水面を造成し、水生植物や餌料生物の豊富な、生産力の高い環境を創出する。消波堤は、親魚誘導、稚魚の保護も合わせ持つ施設とする。

イ. 産卵床：消波堤の造成により、水生植物の植生密度、範囲が広がることが予想されるが、さらに浮産卵床とヨシ地造成により、産卵場面積を増加させる。浮産卵床は、低水位時にも有効に機能を発揮させる。

ウ. 稚仔魚保護礁：稚仔魚の隠れ場、生育場が少ない部分には、保護礁を設置する。

以上の事業計画量と全体配置図を図1に示した。

## 8 主要成果の具体的な数値

消波堤  $L=435m+465m=900m$

浮産卵床 (3基×21列)×4ヶ所=252基

保護礁 (井ゲタ)40基×4ヶ所=160基

〃 (稜積) 125基×4ヶ所=500基

ヨシ帯造成  $L=200m \cdot S=9,500m^2$

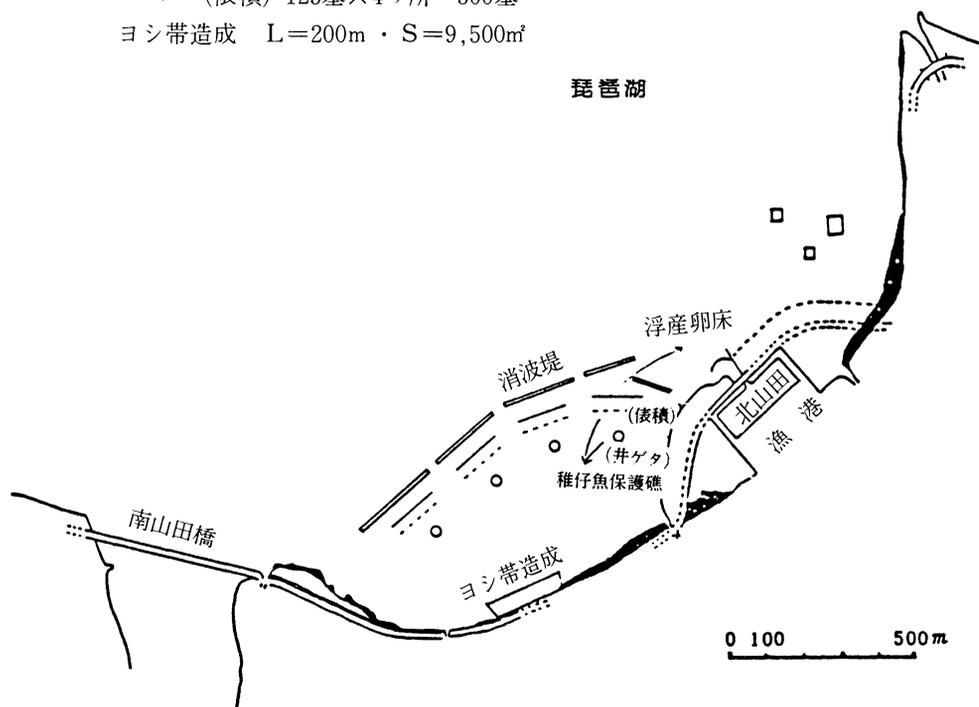


図1 事業計画量と全体配置図

## 9 今後の問題点

増殖場造成後の効果把握

## 10 次年度の具体的な計画

草津地区大規模増殖場造成事業が着手される。